

荻窪病院・杉並区歯科医師会

医科・歯科

# 連携のあゆみ

2014-2019

荻 窪 病 院  
杉 並 区 歯 科 医 師 会

医科・歯科  
連 携 の あ ゆ み

2014 - 2019

目 次

はじめに	
連携組織のご紹介	2
ご挨拶	
荻窪病院    院長    村井 信二	3
杉並区歯科医師会    会長    飯島 裕之	4
荻窪病院    副院長    石井 康宏	5
杉並区歯科医師会ラウンド担当医紹介	6
荻窪病院スタッフ紹介	8
連携のあゆみ(年表)	10
3つの大きな取り組み	12
周術期等口腔機能管理について	14
医科・歯科連携の会	16
その他の地域連携活動	18
資料「口腔機能の管理による効果」	20

はじめに

急性期病院では、入院中、特に術後にADLの低下が見られます。そのため入院患者の口腔内の状態が悪化したり、経口摂取が遅れることもあります。患者の入院初期からの口腔管理は術後の合併症を予防し、入院日数を減らす効果があるといわれています。荻窪病院では歯科衛生士は配置しているものの、歯科の標榜がありません。

この記録は荻窪病院と杉並区歯科医師会が連携し、入院患者の口腔管理を行ってきた5年間の実績をまとめたものです。これまでの足跡が礎となり、今後10年、20年と医療連携が続くことを期待します。

## 医療法人財団 荻窪病院

- ★東京都杉並区の北西部に位置する252床の急性期病院。
- ★24診療科・9センターを擁し、地域の中核病院として1933年の開設以来、救急医療・地域連携医療に取り組む。総職員数830名（2020年4月現在）
- ★荻窪病院には「歯科」がなく、入院患者の口腔管理は長年の課題であったが、2013年より歯科衛生士を配置。2015年から杉並区歯科医師会と連携し開始した歯科医師ラウンドは、病院と歯科医師会と連携のモデルケースとなる。



名称 医療法人財団 荻窪病院  
 院長 村井 信二  
 所在地 〒167-0035 東京都杉並区今川3丁目1番24号  
 代表電話 03-3399-1101  
 最寄駅 荻窪駅(JR・東京メトロ)・西荻窪駅(JR)・  
 上井草駅(西武新宿線)



東京都2次救急医療機関／東京都地域医療支援病院／  
 東京都災害拠点病院／東京都CCUネットワーク加盟施設  
 (急性大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈重点病院) 他

## 一般社団法人 東京都杉並区歯科医師会

1933年に社団法人 東京都杉並区歯科医師会として設立。2013年に一般社団法人 東京都杉並区歯科医師会に移行。杉並区の歯科保健活動全般に関与しています。

1977年から休日急病歯科診療を開始、2011年には杉並区歯科保健医療センターを設立し、障がい者歯科診療・訪問歯科診療を実施しております。会員数323名（2020年4月現在）。



名称 一般社団法人 東京都杉並区歯科医師会  
 会長 飯島 裕之  
 所在地 〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南3-34-3  
 代表電話 03-3393-0391



## ご挨拶

医療法人財団 荻窪病院

院長 村井 信二



杉並区歯科医師会の先生方には日頃より荻窪病院との連携に多大なるご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

2013年4月、全国に先駆けて多職種専門職によるチーム医療を実践していた高知県の近森病院を訪れた際、各病棟に歯科衛生士が配属され、専門職として入院患者さんの口腔ケアを行っていることを知り、そのレベルの高さに衝撃を受けた事が歯科との連携を考えるきっかけでありました。

すぐに看護部長と相談し、患者さんに提供する口腔ケアレベルを専門職レベルまでに向上させるため、歯科衛生士3名の常勤を採用するに至りました。しかし、歯科標榜のない、急性期病院において、歯科衛生士が、専門職としての力を発揮するのは容易なことではありませんでした。はじめは、看護師とともに院内の口腔ケアを確認し、どこに問題があるのかを徹底的に調査して、改善に当たった結果、院内の口腔ケアのレベルは、明らかに向上致しました。しかし、いくら歯科衛生士が主体的に仕事を進めようとしても、歯科医師不在の中で行える口腔ケアには、やはり限界がありました。そんな時に、杉並区歯科医師会の先生方にご相談させていただき、2014年9月に、杉並区歯科保健医療センターとの連携を開始させていただきました。2015年2月には「第1回荻窪病院・杉並区歯科医師会連携の会」を開催し、2015年10月には、荻窪病院医局会において、杉並区歯科医師会による周術期口腔ケアの重要性についての講演を行っていただきました。同月には、荻窪病院内において、杉並区歯科医師会の先生方による定期的な口腔ケアラウンドが開始され、さらに、2015年12月より、杉並区歯科医師会との連携のもと、周術期等口腔機能管理をがん周術期の患者さんから開始し、2018年1月には、摂食機能療法も開始させていただきました。

連携の会も、本年で第6回を迎えるに至り、今後も、医科と歯科の垣根を越えた連携を促進していきたいと考えておりますとともに、その重要性を発信していく所存です。

## ご挨拶

一般社団法人 東京都杉並区歯科医師会  
会長 飯島 裕之



近年、口腔と全身の密接な関係がわかってきました。口腔の状態が良好な人は、口腔清掃が不十分であったり重度の歯周病やむし歯がある人に比べ、誤嚥性肺炎の発症率が低いことや、急性期疾病等で入院している患者の在院期間が短くなる事が報告されてきました。歯科診療においても周術期口腔ケアが保険導入されましたが、これは癌患者の手術前・手術後に口腔ケアを行うというものです。口腔内が不潔であれば歯垢の中にいる細菌が全身に影響を及ぼすため、歯科医師や歯科衛生士による専門的口腔清掃は大変重要となります。これら口腔ケアが全身に及ぼす影響については様々な学会でも報告され、荻窪病院においても歯科衛生士による患者さんへの口腔ケアへの取り組みが始まりました。

歯科衛生士は歯科医師からの指示のもとで口腔ケアにあたる事が出来るため、杉並区歯科医師会の会員の中から選出した歯科医師が、定期的に入院患者さんの口腔状態をチェックし、歯科衛生士に口腔ケアの指示をします。定期的な口腔ケアは訪問歯科診療が必要であるか否かの判断も併せて行うことができます。このような荻窪病院と杉並区歯科医師会がタッグを組む取り組みは全国的に見ても大変珍しく、多職種連携で取り組む医療形態の一つの理想でもあります。

今後はこのような取り組みがチーム医療の模範となり、全国に広がっていくことにより、医療の充実・発展に寄与されることを期待しています。

## ご挨拶

医療法人財団 荻窪病院  
副院長 石井 康宏



当院は歯科標榜のない中規模病院(252床)ではありますが、以前より口腔ケアの重要性は認識しており歯科衛生士は常勤として主に病棟で活躍していました。そこに、杉並区歯科医師会と荻窪病院間での連携が確立されたことで、当院の口腔ケアはさらに強固なものになったといえます。

当時、周術期の口腔ケアが合併症を減らし院内滞在期間を減少させるといった臨床成績(千葉大学丹沢秀樹先生など)が発表されました。当院は地域密着型急性期病院として、平均在院日数を減らしより多くの患者さんに対応することが求められており、連携強化による口腔ケア診療の充実が必要不可欠と認識しました。また、手術麻酔時の歯牙損傷を減らすためのマウスピースに関するシステムづくりも連携の一環として取り上げられました。

前歯科医師会会長細見洋泰先生に連携システムの継続性が重要とのご意見をいただき、歯科医師会と荻窪病院との間で正式な契約を結びました。こういったシステムは全国でも珍しく、歯科標榜のない病院での口腔ケアシステムの先駆けになるのではないかと思います。

現在は、現歯科医師会会長飯島裕之先生のもと、歯科医師会の先生方が当院歯科衛生士とともに病棟をラウンドくださり、手術期の患者さんを中心にリスク評価を行っていただいております。術前歯科受診、周術期の注意喚起につながっています。

さらに、毎春、連携の会を開催しています。講演を聞き新しい知見を得るとともに、顔の見える連携を継続しています。また先日は医療安全の観点から、佐藤修先生を講師としてお招きし、顎骨壊死と薬剤の関係についてご講演いただきました。

今後も当院は、数のみではなく質の高い医療を継続し、さらに地域に貢献できるよう精いっぱい進んで参ります。皆さまの温かいご助言、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



杉並区歯科医師会  
細見 洋 泰

6～7年前、村井病院長と歯科医師会の席で荻窪病院勤務の歯科衛生士へのアドバイスを依頼されたのが連携の始まりだったと記憶しています。歯科としても、周術期において入院日数の減少や有病高齢者の口腔機能管理が健康寿命の延長を認識し始めた時期でしたので受諾しました。

連携しだすと病院の歯科衛生士の勤務意欲の向上と意識改革は当然ながら、看護師さんも口腔への意識が高まり病院としても歯科医師としても患者への貢献が顕著に感じられました。

2週間毎のラウンドではありますが、看護師さんたちの口腔管理への助言と、歯科衛生士が患者の看護や管理に力を発揮するのに十分役立ったと思います。これにより歯科衛生士と看護師さんとが日々スムーズな連携になったと聞いております。

歯科医師のラウンド中に看護師や医師から質問や要求も多くなり、歯科の急性病院における必要性が実感でき出したので大変うれしく思っています。



杉並区歯科医師会  
佐藤 修

医科と歯科の間には微妙なミゾがあると思います。そもそも身体の健康に関わる医療が両者によって分断されているのは不自然ですが、医師も歯科医師もそれぞれのテリトリーの中で仕事をしてきました。

近年ようやくその矛盾が指摘され、がん治療の周術期歯科医療を始めとして医療連携が行われるようになりました。歯周病を治療することにより、肺炎、糖尿病、循環器疾患など様々な疾患の治療効果が向上することは、すでに実証されています。口腔の機能を改善することで、健康を維持し、生きていくための最重要ポイントである摂食・嚥下機能も改善します。

5年前、まさに時代の先駆けとして、荻窪病院と杉並区歯科医師会による緊密な連携が行われるようになりました。口腔ケアの重要性にご理解いただき、このシステムを立ち上げられた村井信二院長先生には心から感謝申し上げます。



杉並区歯科医師会  
大竹 毅

小1の頃、姉が荻窪病院に1年ほど入院していました。親と一緒にタクシーで行き、暗い中ひとり車の中で待っていたことを覚えています。40年前からの朝のジョギングコースの後半は井草八幡から荻窪病院に通じる道です。自分にとって身近な病院。そこで極めて微力ながらお手伝いできる喜びを感じています。

病棟回診では初日に出血性素因を持った患者さんで痂皮が上顎に多く付着していて、除去したいが一方除去すると粘膜が弱くそこから出血して新たな痂皮が血液からできてしまう方に出会い、「どうしたらいいんだ?」と自分の無力さと勉強不足を痛感しました。周術期口腔機能管理では手術前で不安な患者さんを少しでも励まそうと思っていたら、治療を前向きにとらえる方が多くその生きる姿勢にこちらが逆に元気づけられることが多くなっています。

看護師さん、Drともに皆さん気さくで明るく、いい雰囲気だなというも感じています。そこに関わらせていただき本当にありがとうございます。



杉並区歯科医師会  
杉野 裕 志

とある宴席で石井副院長先生から荻窪病院で歯科衛生士を雇用したと伺ったのは2013年の秋頃であったと記憶しています。当時杉並区歯科医師会の事業担当であり医療介護、病診連携の中で歯科衛生士の果たす役割は非常に大きいと感じていました。まさに渡りに船、蛇の道は歯科衛生士? そこに足を踏み入れた同志たちを支えるべく活動を始めました。

ちょうど杉並区歯科保健医療センターでの訪問診療も始まったばかりだったことも連携協力の実現をよりスムーズにしたと思います。

もちろん村井院長先生はじめとする看護部及び事務の方々の温かく深いご理解ご配慮の賜物といつも感謝の気持ちでいっぱいです。

現在私(を含めた4名)は2週に一度、荻窪病院の歯科衛生士さんと病棟ラウンドをしています。毎日入院患者さんを診ている彼女たちに教えられることも多く、こちらも更にスキルを上げなくては、と大いに刺激になっています。



荻窪病院 看護部長  
倉澤正子

入院される高齢患者さんは、治療のため禁食となることが多く、口腔内乾燥が要因とした口臭が発生、その対策に難渋していました。

2013年、チーム医療メンバーとして歯科衛生士を採用致しました。看護職員と協働し口腔内環境の改善を図ることが目的です。

しかし、歯科標榜のない当院で歯科衛生士ができることは何かと模索する中、院長・副院長の計らいで、杉並区歯科医師会と連携を取らせていただくことができました。

歯科医師ラウンドでアドバイスをいただきながら口腔ケアの充実を図ることができ、口臭改善・予防ができるようになってきました。これからも患者さんのADL・QOLの向上を目指してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



荻窪病院 看護部  
歯科衛生士  
吉本梨恵

2013年に「看護スタッフが院内で統一された適切な口腔ケアを実践し、患者へ提供できる」ことを目的に歯科衛生士が入職しました。歯科標榜のない急性期病院で歯科衛生士の役割は何かを悩み模索し、色々な壁にぶつかりながらも円滑に活動を進めていったのも、杉並区歯科医師会の先生方、病院長、副院長、看護部長をはじめ様々な関係者に支えていただいたおかげです。このような歯科衛生士の活動の場を広げてくれた事を大変感謝しております。

これからも患者さんの口腔の健康をサポートし、チームでより良いケアの質の向上と療養生活の支援を目指してまいります。

これからもご指導の程よろしくお願いいたします。



荻窪病院 看護部  
歯科衛生士  
鈴木美智子

看護部ビジョンである「私たちは安全で確実な看護と思いやりの心で、あらゆる人々の健康を支援します」を胸に、専門職として口腔を通じ、感染予防としての口腔ケアの知識と技術を病院内外へ広めることを目指し、看護師さんや多職種の方々と活動しております。活動の中で、人と人の結びつきであるリレーションシップを一番大切にしております。

杉並区歯科医師会の先生方におかれましては、歯科医師ラウンドを始め、いつも親身に暖かいご指導をいただき、心より感謝申し上げます。ご指導いただきましたことを糧に「縁の下の力持ち」として今後とも精進し、患者さんの思いに寄り添いながら支援してまいります。

これからもご指導の程、お願い申し上げます。



荻窪病院  
訪問看護ステーション  
歯科衛生士  
外園教代

歯科医師のいない病院で、歯科衛生士の自分たちだけで、どこまで出来るだろうと2016年の入職当時は不安がありましたが、歯科医師ラウンドにてアドバイスを頂きながらここまで来ることができました。

杉並区歯科保健医療センターとの連携により、病棟での歯科往診に迅速に対応して頂き、患者さん、そのご家族からも喜びの声をたくさんいただきました。歯科医師会の先生方の迅速で柔軟な対応にて、荻窪病院内の口腔内管理はより充実しました。

院内でのケアが充実してきている今、訪問看護ステーションの一員として、看護師と相談しながら、在宅の口腔管理を充実させることが次なる課題です。

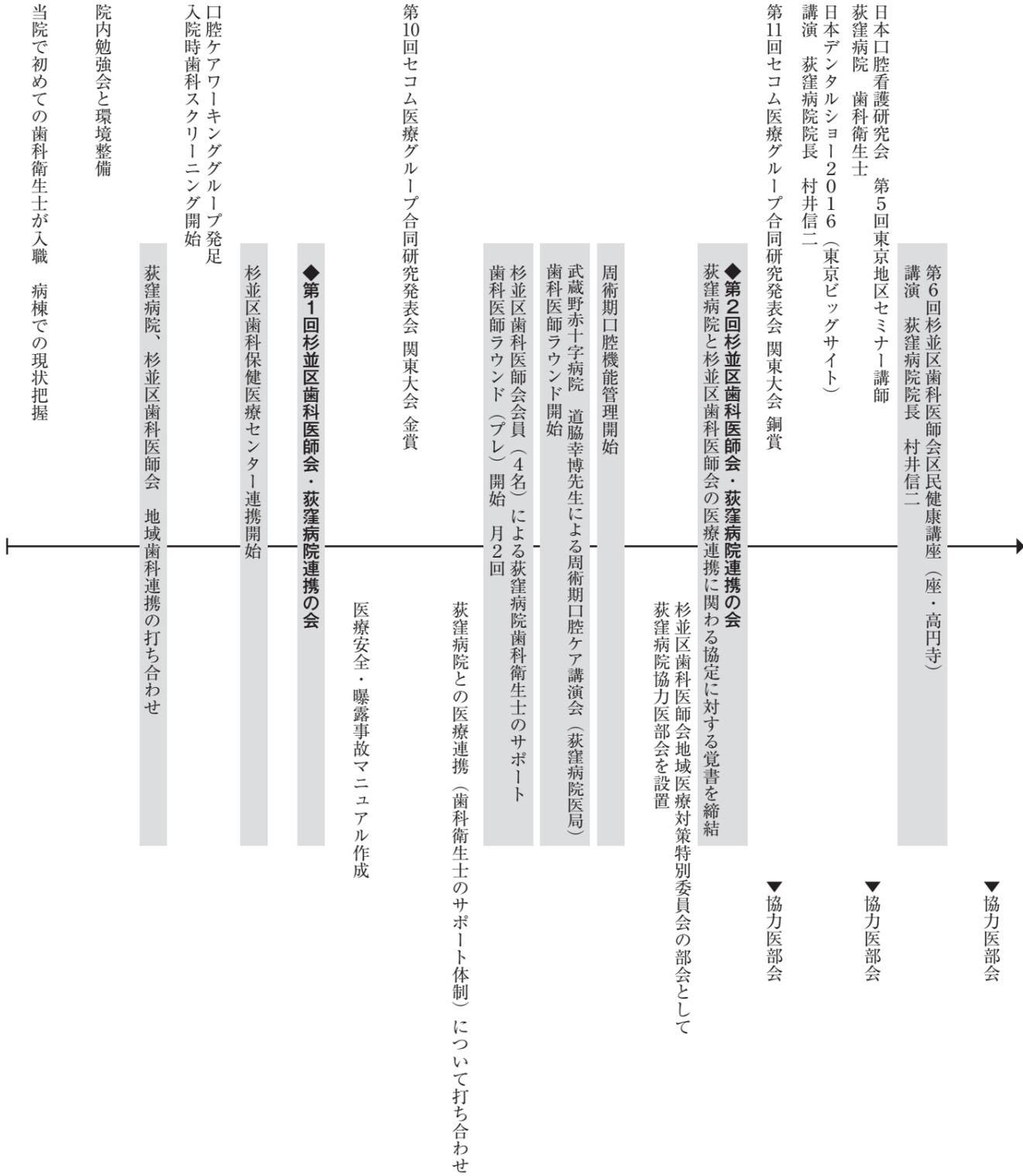
今後も、地域の先生方にはアドバイス、お力添えを頂けたら幸いです。

連携のあゆみ（年表）

2013年	2014年					2015年					2016年					2017年			
9月	4月	5月	6月	9月	12月	2月	3月	6月	8月	9月	10月	12月	3月	4月	6月	7月	9月	11月	2月

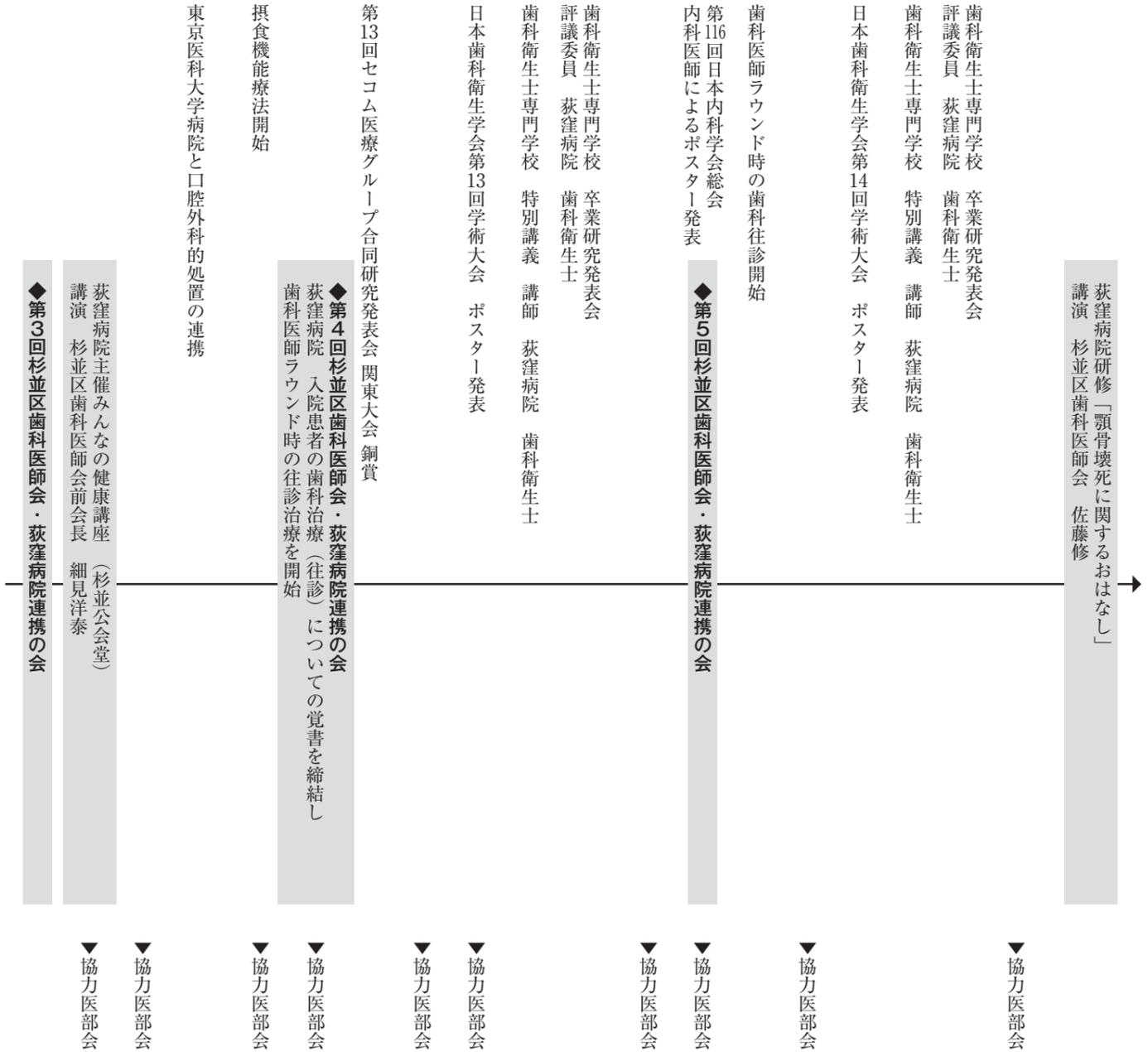
― 荻窪病院の取り組み ―

― 杉並区歯科医師会の取り組み ―



連携のあゆみ（年表）

2017年				2018年							2019年					2020年				
4月	5月	9月	11月	1月	4月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	4月	5月	7月	9月	10月	11月	12月	2月



◆ 歯科医師ラウンド

杉並区歯科医師会から協力歯科医を派遣し、歯科的トラブルを持つ患者さんの口腔ケア、歯科往診適応の判断などを看護師、歯科衛生士へ助言をしています。その内容は院内の口腔ケアワーキンググループで看護師と情報共有されます。その成果として、看護師による口腔内観察への意識が向上しています。



↑ 口腔ケアワーキンググループの様子



↑ 歯科医師ラウンドの様子

◆ 周術期等口腔機能管理

手術前に看護師から連絡を受けて歯科衛生士が口腔内を観察し、主治医が、診療情報提供書を作成してかかりつけ歯科医、もしくは各地域の歯科医師会の歯科医院に紹介。歯科医が口腔衛生状態の改善をしてから患者さんが手術を受けることで患者さんの負担軽減、入院日数の短縮を目指しています(場合により全身麻酔の手術時の歯の保護のためマウスガードの作成も行っています。詳細は14ページをご覧ください)。



← 歯科衛生士による口腔観察の様子

↓ 外来で患者さんに説明している周術期等口腔機能管理についてのリーフレット

**歯科受診のおすすめ**

当院では、入院や治療開始前に歯科受診しておくことをおすすめしています

お口の中はとも細菌が多い部位です。  
お口のトラブル、誤嚥性肺炎や口内炎など合併症の予防や軽減をし、治療が円滑にすすむよう、事前にお口の中を良い状態に整えておくことが重要です。  
当院は杉並区歯科医師会と連携し、ご自宅に近い協力歯科医院をご紹介しますことができます。また、かかりつけ歯科医院がある方はご相談ください。

お口の中をクリーニングすることで、細菌が減り、手術後の肺炎や感染を起こすリスクを減らせる可能性があります。

人工呼吸器の管を口から挿入する時に、歯が折れたり抜けたらしないよう歯を守る準備ができます。

入れ歯を調整しておくなど、あらかじめお口の中の状態を良好しておくことで手術後お口からの食事開始をスムーズにし、治療中食事しにくくなることを軽減して、体力の維持回復を助けます。

■ 歯科医師に持参するもの  
● 現病歴 ● 紹介状 (診療情報提供書)  
● お薬手帳 ● 入れ歯 (普段使用していない場合でも)

■ 歯科治療費について  
むし歯の悪化処置、ぐらつく歯の固定、マウスピース作製、抜歯などで費用負担が重くなりますので、ご理解の程よろしくお願い致します。  
また、退院後もお口のチェックや歯科治療の継続が必要な場合がありますので、治療計画については歯科医師にご相談ください。

医療法人財団 荻窪病院 03-3399-1101 (代)  
(内科 口腔腫瘍内科 口外科 心臓血管外科 産婦人科 泌尿器科 口腔外科) 外来  
2018年5月 作成

◆ 歯科往診

緊急の歯科診療が必要な入院患者さんに杉並区歯科保健医療センターから歯科往診対応し、退院後の外来通院もしくは歯科訪問診療に繋がります。2019年5月からはラウンド歯科医がラウンド日に応急対応(診療)する体制も整いました。



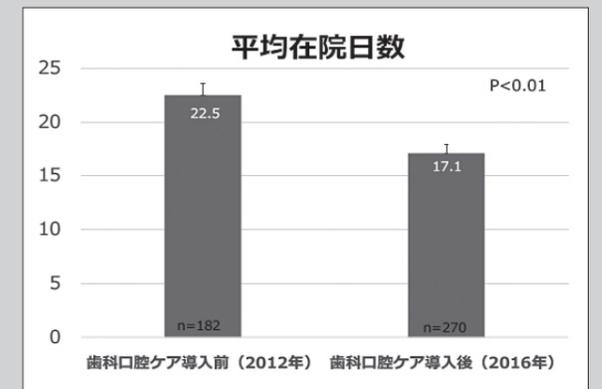
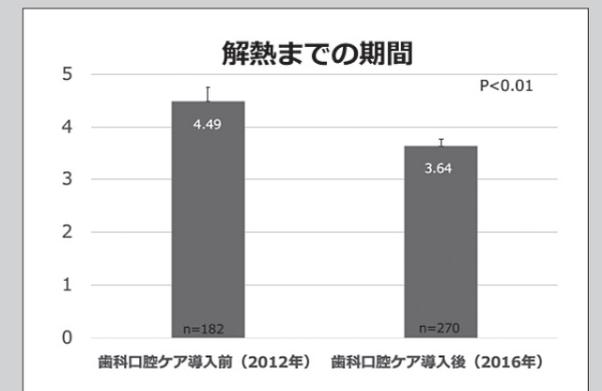
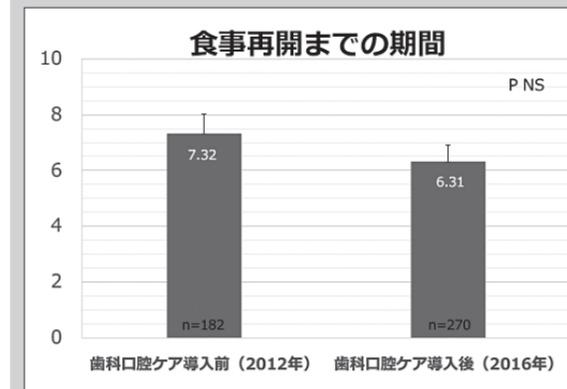
↑ 杉並区歯科保健医療センターの医師と歯科衛生士による、荻窪病院への歯科往診。

荻窪病院の内科医師による研究発表

「総合病院における歯科衛生士による歯科口腔ケアの導入前後での後期高齢者肺炎治療に及ぼす効果の比較」より

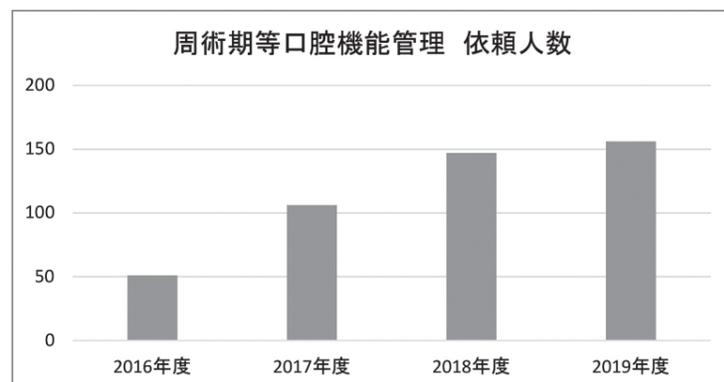
(2019年4月26日 第116回日本内科学会総会)

肺炎で入院した後期高齢者の患者に対して、歯科衛生士による口腔ケア導入前と導入後の経過の比較をしたところ、解熱までの期間、平均在院日数、食事再開までの期間に短縮が見られた。



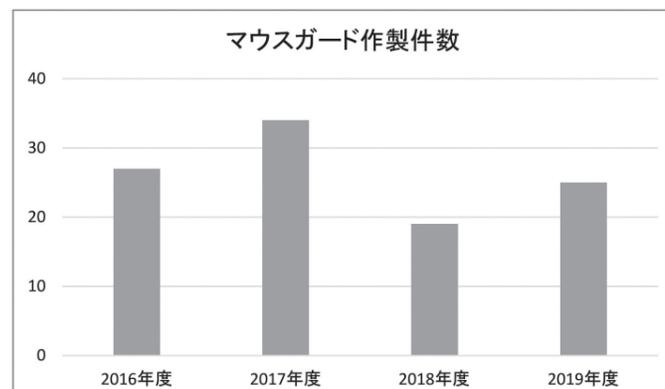
口腔ケアが合併症を予防し、QOLを上げる

「周術期」とは入院、手術、術後の回復と、患者の手術の前後を含めた一連の加療期間のことを意味します。具体的には術前・術中・術後の期間であり、外科的治療の成果を左右する重要な期間です。この期間に手術の合併症を予防し、治療成果と患者の療養生活の質の向上を図る目的で歯科が行う専門的口腔ケアを含めた口腔機能管理が「周術期等口腔機能管理」とよばれます。

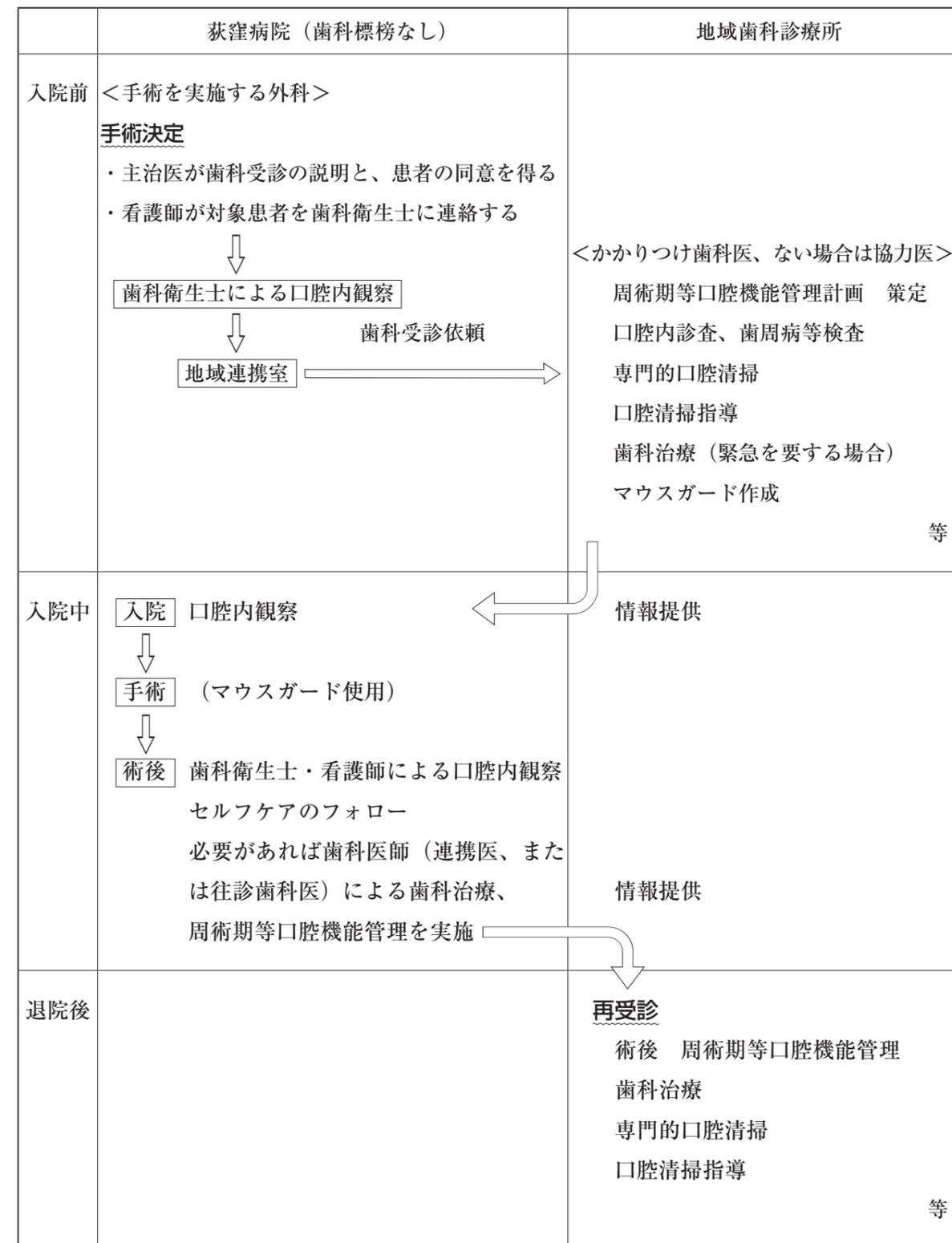


マウスガードの有用性

全身麻酔時の気管挿管により偶発的に起こる歯の損傷等のトラブルに対し、マウスガードを使用することで予防することができます。歯や差し歯等の損傷を予防するだけでなく、動揺歯の脱離や脱離した歯の誤飲も予防できます。2018年4月より保険が適用されるようになりました。



荻窪病院入院患者周術期等口腔機能管理の流れ



▶第1回 荻窪病院・杉並区歯科医師会 連携の会

日時 2015年2月23日(月) 19時30分～

場所 新東京会館 3階

講演

- 1 「摂食嚥下機能障害の診断・評価、経口での摂食の可能性について」  
杉並区歯科保健医療センター 医長 福井智子
- 2 「入院患者の口腔ケアについて」  
武蔵野赤十字病院 特殊歯科・口腔外科部長 道脇幸博 先生
- 3 「荻窪病院での口腔ケア活動について」  
荻窪病院 歯科衛生士 吉本梨恵 他2名

▶第2回 荻窪病院・杉並区歯科医師会 連携の会

日時 2016年4月13日(水) 17時30分～

場所 第1部 荻窪病院本館7階レストラン

第2部 杉並会館マツヤサロン

講演

- 1 「杉並区歯科医師会と荻窪病院 連携の現状と課題」  
荻窪病院 歯科衛生士 吉本梨恵・外園教代 他1名
- 2 「周術期口腔ケアの現在までの流れとその必要性」  
～知っていますか？義歯の汚れと歯の汚れ～  
杉並区歯科医師会 会長 細見洋泰
- 3 「杉並区歯科医師会・荻窪病院における連携の現状と今後の展望」  
荻窪病院 院長 村井信二



▶第3回 荻窪病院・杉並区歯科医師会 連携の会

日時 2017年4月12日(水) 19時00分～

場所 杉並会館マツヤサロン

講演

- 1 「周術期歯科連携の現状について」  
荻窪病院 歯科衛生士 吉本梨恵・外園教代
- 2 「摂食嚥下障害の評価と訓練の実際」  
東京医科歯科大学 高齢歯科学分野 准教授 戸原 玄 先生



▶第4回 荻窪病院・杉並区歯科医師会 連携の会

日時 2018年4月18日(水) 19時00分～

場所 杉並会館マツヤサロン

講演

- 1 「荻窪病院における周術期口腔機能管理の現状」  
荻窪病院 歯科衛生士 吉本梨恵・外園教代・鈴木美智子
- 2 「口腔機能管理の医学的・医療経済的効果について」  
千葉大学医学部 歯科口腔外科 教授 丹沢秀樹 先生



▶第5回 荻窪病院・杉並区歯科医師会 連携の会

日時 2019年4月17日(水) 19時00分～

場所 杉並会館マツヤサロン

講演

- 1 「他職種連携により、口腔機能の改善・維持につながった症例」  
荻窪病院 ICU看護師 江藤千香子
- 2 「歯科標榜のない急性期病院で医科歯科連携のもと経口摂取が可能となった誤嚥性肺炎の一症例」  
荻窪病院 歯科衛生士 鈴木美智子
- 3 「医科歯科連携・果たすべき役割と今後の展望」  
千葉大学大学院医学研究院 口腔科学講座 教授 丹沢秀樹 先生



日本デンタルショー2016東京

～歯科医療 未来と夢～

日時 2016年7月17日(日) 午前10時30分～午前11時30分

場所 東京ビッグサイト

講演 「歯科標榜の無い急性期病院における歯科衛生士の役割」  
荻窪病院 病院長 村井信二



荻窪病院主催 みんなの健康講座 in杉並公会堂

～医師が解説！ 知っておきたい病気のあれこれ～

日時 2017年5月27日(土) 午前10時～午後4時

場所 杉並公会堂 小ホール

特別講演 「義歯を使って快適生活！」 杉並区歯科医師会 会長 細見洋泰  
「お口の管理をしよう」 荻窪病院 歯科衛生士 吉本梨恵



第6回 杉並区歯科医師会 区民健康講座

「口から始まる健康生活」～口は身体の入口です～

日時 2016年11月27日(日) 午後1時～

場所 座・高円寺2

講演Ⅲ 病診連携（周術期口腔機能管理等）  
荻窪病院 病院長 村井信二

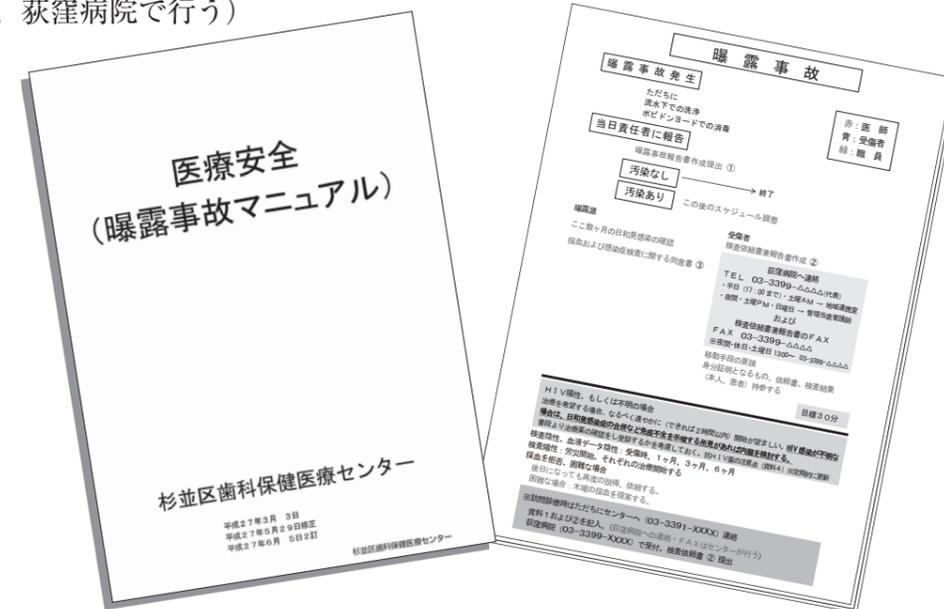
病院での口腔ケア、地域の診療所と連携し周術期口腔機能管理を実践している  
荻窪病院の取り組みについて紹介

ブース展示 荻窪病院の紹介



(病診連携等)

- 1 荻窪病院 登録医制度 登録歯科医院 71件（杉並区歯科医師会）
- 2 歯科医療機関の施設基準として、荻窪病院を緊急連携医療機関として登録  
施設基準 歯科外来診療体制加算  
かかりつけ歯科医療強化型歯科診療所 等
- 3 杉並区歯科保健医療センターの医療安全・曝露事故マニュアル作成（曝露事故時の治療は、荻窪病院で行う）



## 口腔機能の管理による効果

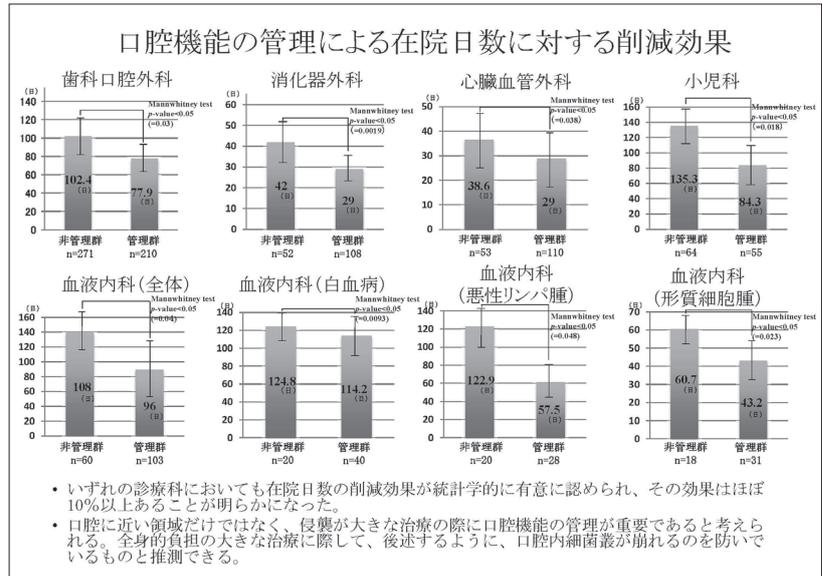
千葉大学医学部附属病院における介入試験結果

### 【試験概要】

- 千葉大学医学部附属病院 歯科・顎・口腔外科にて口腔機能の管理を実施。
- 2004年1月から2013年10月までの9年10か月間。
- 対象診療科により、調査期間が異なる。
- 歯科・顎・口腔外科、消化器外科、心臓血管外科の手術症例。
- 歯科・顎・口腔外科の放射線治療症例。
- 小児科、血液内科は悪性腫瘍に対する化学療法症例。

### 【口腔機能の管理の内容と本研究における対象群に関して】

- 「口腔機能の管理」：単なる清拭だけではなく、歯周ポケット、カリエス、歯根管内、根尖部、顎骨、唾液腺など、専門領域に対する専門的処置により、口腔の機能をできるだけ正常に保つ。
- 「非管理群」：従来の主に看護師により行われてきた口内清拭などの一般的な口腔内ケアを受けた群。
- 「管理群」：歯科医師により診査・計画され、歯科医師・歯科衛生士により実施された専門的な口腔機能の管理を受けた群。



- いずれの診療科においても在院日数の削減効果が統計的に有意に認められ、その効果はほぼ10%以上あることが明らかになった。
- 口腔に近い領域だけではなく、侵襲が大きな治療の際に口腔機能の管理が重要であると考えられる。全身の負担の大きな治療に際して、後述するように、口腔内細菌叢が崩れるのを防いでいるものと推測できる。

## 口腔悪性腫瘍患者における口腔内細菌叢における病原菌の検出検査

- 病原細菌の検体採取は、早朝、朝食や口腔内清拭前に行った。
- 細菌は45分程で分裂し、数は2倍に増加するので、細菌数ではなく、細菌の種類(病原性)に注目して検討した。
- 採取検体は、喀痰と口腔内ぬぐい液(唾液、口腔底部から採取)である。
- 対象者は、口腔悪性腫瘍患者で、手術単独治療終了患者と放射線化学療法終了患者である。

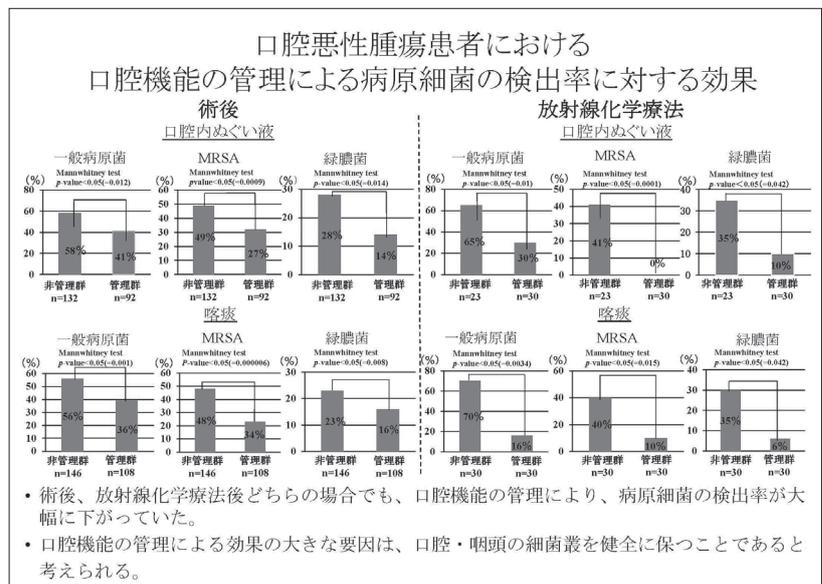
### 検出対象病原菌

#### 一般病原細菌

*Porphyromonas gingivaris*  
*Streptococcus pneumoniae*  
*Prevotella intermedia*  
*Enterococcus faecalis*  
*Fusobacterium nucleatum*  
 MSSA  
 肺炎球菌、肺炎桿菌  
 腸球菌  
 その他

#### MRSA

#### 緑膿菌



- 術後、放射線化学療法後どちらの場合でも、口腔機能の管理により、病原細菌の検出率が大幅に下がっていた。
- 口腔機能の管理による効果の大きな要因は、口腔・咽頭の細菌叢を健全に保つことであると考えられる。

※ 千葉大学医学部附属病院 教授 丹沢秀樹  
 2013年 中医協資料より抜粋



発行 2020年9月10日  
医療法人財団 荻窪病院  
一般社団法人 東京都杉並区歯科医師会